

教育同窓会 会報

- ・ 教育学部
- ・ 人間社会学域
学校教育学類
- ・ 大学院教職実践研究科
- ・ 養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第 13 号 2023.3.22



富山大学との共同教員 養成課程について

学校教育学類長

山本 卓

令和4年4月に富山大学との共同教員養成課程が発足しました。複数の大学が共同で運営する課程は全国でも数例のみで、教員養成としては二番目です。富山大学が発達科学部を廃止し教育学部を新規開設した一方で、金沢大学学校教育学類は以前から馴染みのある名称のままです。取得できる免許も変化がないため、高校の進路担当の先生方から「ほとんど変わってないですよ」と言われることもあります。ただし、外見は同じでも中身は別物です。

設立の背景として現在の教員養成学部(学類)が置かれている状況を説明しましょう。20年前の教員就職氷河期とは打って変わり、直近10年間の大学の教員就職状況はきわめて好調です。しかしながら、退職者の減少と少子化の進行は、こうした好景気が永遠に続くものではないことを示しています。

他方、「総合的な学習の時間」(現在の探究学習)のような教科の枠を超えた取り組み、コミュニケーション力の重点化、最近ではSDGs教育やICT機器の活用と、この20年間に既存の教科の免許カリキュラムと教員では対応しにくい分野が大きく拡大しました。その一方で、大学自体の合理化や新規事業の加速化のために、教員養成に関わる大学教員の増員も困難です。

こうした状況を打開し、より発展的で現代的な教員養成を目指したのが、共同教員養成課程です。富山大学は、一般学部として培った教員養成課程にはない科目を擁しています。金沢大学には一貫して教員養成に携わってきたノウハウの蓄積があります。二つの大学の力を合わせれば、幅広いカリキュラムを展開し、現在の学校が求める新しい教員を輩出できるのではないかと。これが出発点で

した。

共同教員養成課程のカリキュラムの最大の特徴は、先進的教育科目と名付けられた科目群です。「インクルーシブ教育基礎演習」「遠隔教育実践論」「小学校プログラミング教育の理論と実践」「国際化と学校教育」「SDGs教育実践演習」といった科目名だけでも、従来のカリキュラムとの違いがお分かりいただけるでしょう。これらの科目は全学生に必修で、本共同教員養成課程の修了者が身につけている基礎的な資質となります。教科の専門科目(主に中学校免許向け)も、「日本文学史(教育上の現代的課題を含む)」や「哲学概論(哲学と現代的教育状況)」など教職に特化した内容にしました。在学中から「教員養成」を学生に意識させることで、現在の学習と教員という職業との間に有機的な連関を作ってもらおう仕掛けです。

隣の県とはいっても富山大学と金沢大学は直線距離で約50キロメートルあります。そこを往来するのは学生と教員の双方にとって現実的ではないため、遠隔授業の専用教室を両大学に設けました。この設備を使えば二つの大学の同一学年全員が、同時に授業を受けられます。当然のことながら、一方の大学の教員が、もう一つの大学の受講生を指名して意見を求めることもできます。配布物はサーバーからダウンロードします。ZoomやTeamsよりもリアルな遠隔授業が可能になります。

もちろん、学生たちには「リアルな対面」の機会もあります。「野外体験活動」は富山と金沢の学生の合同合宿形式の授業です。小中学校の宿泊学習で使われる施設を利用し、「教員の視点」から野外活動を再体験する一方で、大学を超えた人間関係を構築します。こうした関係は、教員になったときに「別の視点を持った仲間」として得難いものになるでしょう。

できたばかりの組織ですので、現在は大学教員も走りながら考えている状態です。二つの大学の文化の擦り合わせにはそれなりの時間もかかりません。しかし、4年後に第一期生が卒業するときには、この教員養成課程を選んでよかったと思ってもらえるよう、教員一同取り組んでいます。

シリーズ 大学を訪ねて⑨

金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属中学校
校長 三戸 望



「附属中学校の今」

1 平成29年度に文部科学省の有識者会議により、国立大学附属学校の改革に関して報告書が出されました。本校はその報告書に基づいて、いくつかの改革を行ってまいりました。

(1) 実験的・先導的な教育課程への取り組み

- ① 令和3年度より4年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受けました。研究開発課題は「個々の持つ強みを協働させて『新たな価値を創造する資質・能力』を育成する新設教科『創造デザイン科』の在り方に関する研究開発—個別最適化学習とSTEAM教育を柱として—」というものです。1年生が年間45時間、2,3年生は60時間、創造デザイン科の授業に取り組んでいます。今年度は1年生が「より良い学校を創造しよう」、2年生が「学校と地域の関係を創造しよう」、3年生が「地域をより良くするための手立てを考え、行動しよう」というテーマを掲げ、様々な学習に取り組んでいます。昨年度1年間の取り組みでは、生徒の「アイデア創造への自信」が高まったという成果が得られています。
- ② 小学校、中学校、高等学校と一貫したプログラミングエンジニア育成塾を立ち上げて、プログラミング教育の推進に取り組んでいます。
- ③ 個別最適化学習の一つとして5教科でキュビナ(AI教材)を導入しました。
- ④ 校務支援ソフトに特異な才能を持つ生徒の特性を記載し、データを蓄積しています。
- ⑤ 一人に一台のタブレット端末を貸し与え、家庭への持ち帰りも自由に行い、文房具の一つとして使用させています。
- ⑥ 何らかの事情で学校に通えない生徒に向けて、一部の教科で授業配信を行っています。

(2) 地域のモデル校としての入学者選考

令和4年度から帰国生入試を一般入試と並行して行っています。入試科目は日本語作文、英語作文、算数、面接、体育実技です。

(3) 大学における教育・研究への貢献

- ① 令和3年度より公認心理士の教育実習生を受け入れることになりました。そのために、2名の教員

が公認心理士の資格を取得しました。非常勤のスクールカウンセラーも実習生の指導に当たっています。

- ② 教育実習生の負担を軽減し、早期退勤を徹底させ、教職への魅力を高めるように指導するようになりました。

(4) 地域との連携強化

- ① 創造デザイン科の授業では地域に関する活動を多く取り入れています。金沢大学附属学校園全体で作ったコラボレーション推進室の協力を得て、多くの地域の方に指導していただいています。
- ② 学校での活動状況をHP上で随時公開し、外部の方も自由に教育内容を閲覧できるようにしました。

(5) 教員の働き方改革のモデル提示

令和4年度より出退勤の記録を大学職員と同様にコンピュータ上で行うことができるようにしました。同時に教員の負担軽減のために、行事の精選、IT化の推進、部活動指導員の導入、部活動時間の短縮、会議時間短縮、校務支援システムの導入、通知簿の簡素化、変形労働制の導入、ペーパーレス化等に取り組んでいます。

2 本校の教育目標にある「自由闊達な気風」を大切にするために下記の改革を行いました。

- (1) 体操服登校を許可し、女子生徒がスカートをはかなくても良い機会を増やしています。
- (2) 衣替えの日を学校で決めずに、各自の判断で行えるようにしました。
- (3) 教材の持ち帰りは自己判断できるようにしました。
- (4) 宿題を減らし、家庭学習するものはなるべく自己判断で取りまわせるようにしました。



3年創造デザインの授業風景

学校教育学類 英語教育専修の紹介

自己研鑽と切磋琢磨

人間社会学域学校教育学類英語教育専修には、中学校や高校で英語教員になることや、小学校の教員になることを目指して学んでいる人が多くいます。

担当してくださっているのは、英文学に留まらず、太平洋周辺の文学全般を専門とする山本先生、英語学や英語音声学を専門とする守屋先生、英語教育に関する様々な理論や教育法に明るい滝沢先生、主に米文学を専門とする久保先生の4名です。

英語教育専修は他の専修と比べると、やや定員が少ないのですが、総合教育部文系や他専修から移ってくる人も多く、賑やかになってきています。授業では他学類の履修生とも意見を交換したり、小テストや定期考査前には、お互いに問題を出し合ったり、不安なところを教え合ったりして、お互いに刺激を与え合い、高め合いながら学習できています。

私たち3年生は、附属小学校、附属中学校での教育実習で授業の難しさや教員の大変さを目の当たりにして危機感を覚えた人が多く、実習後は各々進路に違いはあっても、大学で自習をする人が増えたり、何か新しいことに挑戦する人がいたり、授業中の発言が増えたりと、より意欲的に学習に取り組んでいるように感じます。そしてそれが新たな刺激となってお互いのモチベーションとなり、とても良い雰囲気になってきていると実感しています。

自分たちの専修は長期、短期に関わらず留学に挑戦する人が多いです。コロナの影響でオンライン留学に挑戦した人がいたり、既に現地で頑張っ

ていらっしゃる4年生の先輩方がいたり、今年出発予定の3年生がいたり、前向きに検討中の2年生がいたりと、状況は様々で、そのため卒業時期が入学当初の予定とずれる人も少なくありません。しかし、異なる学年の雰囲気に触れることで、新たな発見や新たな刺激を得ることができると思います。特に英語科の学生研究室は英語教育専修の学生であれば学年問わず自由に利用できることになっており、そこでは簡単に専修内の学年を越えた交流ができます。このような様々な刺激によって、一人一人がさらなる高みへ近づいていける可能性を秘めた専修でありたいです。

4月からは、私たち新4年生はゼミの配属がなされ、卒業論文研究を進めると同時にその執筆、教員採用試験、教育実習など、様々な壁がありますが、先輩たちも通ってきたその道に立ち向かい、同専修の学生同士が良い雰囲気切磋琢磨し合うことで、力を合わせて乗り越えていきたいです。

新3年生は専門科目の履修に加え、初めての教育実習があります。不安なことや嬉しかったことを話し合うなどして仲間の内で協力するだけでなく、先輩に質問する、できる限り助言をするなどして、サポートし合って頑張っていきたいものです。そして4月から社会人となる先輩方は一足先に実際の教務にあたり、様々な挑戦をされることでしょう。

その先輩方の背中を追いかけつつ、同学年内はもちろん、他学年からの刺激も踏まえ、英語教育専修として磨きをかけていき、自分たちの色を出して先輩方に近づいていきたいです。



私たち3年生



卒業式の日全員で

☆☆☆ 学友支援室からのお知らせ ☆☆☆

令和5年の第17回ホームカミングデイは、10月28日(土)に開催！
卒業生・修了生の皆様、久しぶりに青春の学舎に寄りませんか！

昨年の第16回は、令和4年10月29日(土)、本学角間キャンパスにおいて、午前中はキャンパス見学会、午後は、歓迎式典、特別講演会、懇親交流会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、十分な感染症対策を施した上での開催となり、歓迎式典には133名、懇親交流会には132名、キャンパス見学会には81名の卒業生及びそのご家族等にご出席いただき、盛況な1日になりました。

歓迎式典では、和田 隆志学長による歓迎挨拶、安宅 建樹金沢大学学友会会長の祝辞、中村 慎一理事・副学長による金沢大学の近況報告、日本人学生(2名)による留学体験報告、そして課外活動報告(ボランティアサポートステーション)が披露されました。

特別講演では、公益財団法人都市活力研究所上席研究員 北川 雅俊(きたがわ まさとし)氏(昭和52年工学部卒業)に、「企業研究、大学産学連携活動を経て知った大学等ベンチャー/スタートアップの重要性」と題し、お話いただきました。スタートアップとベンチャーの組織としての違いや大学シーズを企業化し、イノベーションの創発を図ること、次なるシーズ研究の喚起が重要である、と話されました。また、産学連携活動ではこれまでの戦略・戦術重視の取り組みからオープンイノベーションを重視し、1箇所集中主義から複数拠点を軸とした企業ノータツの大学発スタートアップへとシフトを変化させている現状について詳しく説明がありました。お話の内容は、大学の人材育成や研究開発にとっても大変重要であり、組織としても金沢大学の今後の目標とする社会共創基盤の強化につながるものと思われまます。

歓迎式典終了後には、金沢大学学友会 第12回役員総会が開催されました。

夕刻からの懇親交流会は、安宅 建樹学友会会長の乾杯の発声で始まりしました。会場では、本学卒業生の木管アンサンブル〈ナチュラル・クインテット〉により、開始前と乾杯後に演奏をいただき、懇親交流会はその素晴らしい響きに大いに盛り上がりしました。

次回、第17回金沢大学ホームカミングデイは、令和5年10月28日(土)に開催します。次回までには、新型コロナウイルス感染症が収まることを願いつつ、同期生・サークル仲間の皆様におかれましては、校歌を歌いに是非とも懐かしい母校にお越しいただきますよう、お願い申し上げます。

○金沢大学学友支援室Webサイト(ホームカミングデイの情報も掲載)

https://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html

○学友支援ニュース・レター(学友支援室Webサイト内にPDF版を掲載)

同窓会の開催予定や報告、本学の行事・イベント等をご紹介します。

○金沢大学教育同窓会Webサイト

<http://www.sakane.net/kanazawa-u-kyoikudosokai/>



教育同窓会 会計決算報告(R3年度)

令和3年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告(R3.4.1~R4.3.31)

【収入】

項目	金額(円)	備考
1 繰越金	2,147,469	
2 会費	1,189,350	新入学生終身会費(60名) 特別会費(2名)
3 利子	11	
合計	3,336,830	

【支出】

項目	金額(円)	備考
1 会議費	0	
2 通信費	21,115	住所変更連絡等料金後納郵便料 事務連絡費
3 事務用品費	0	
4 分担金	0	
5 印刷発送費	1,129,884	会報No.12印刷発送
6 慶祝費	155,000	卒業祝い図書カード(1,000円×155人)
7 その他	9,000	会報執筆お礼(3,000円×3)
合計	1,314,999	

収入総額 3,336,830 - 支出総額 1,314,999 = 2,021,831

【差引残高】 2,021,831円は2022(R4)年度事業に繰り越し。

編集後記

今回の大学の組織改編には、これからの時代に活躍する教師の育成への願いが感じられます。その願いが実を結ぶことを祈ります。さて、本号も無事発行できました。ご協力くださった全ての方々に厚くお礼申し上げます。(中村)

教育同窓会ウェブサイト開設

教育同窓会では活動の状況や情報をより広く、より早くお伝えすること、交流の場を広げ、つながりが持てることをめざして、ウェブサイトを開設しました。

会報は第1号から最新号まですべて掲載、新着情報として様々な活動の様子もお伝えできるようにしています。

また、教育同窓会への連絡がしやすいように、同窓会開催情報の連絡、お問い合わせ、会員情報の変更などのためのフォームも用意しています。

ぜひ一度ご覧になり、ご意見ご感想等あればぜひお寄せください。

現在「思い出のアルバム」のページも企画中です。昔懐かしい校舎や教室、行事の写真で、インターネットに公開できるものがありましたら、ご提供ください。

教育同窓会ウェブサイトのURLは上記の通りです。

★同窓会情報をお寄せください★

同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催情報を、同封の返信用はがきで事務局までご一報ください。情報をお知りの方、どなたでも構いません。会報に同窓会情報として掲載します。幹事様のお名前をご連絡ください。

また、同窓会を開催するために、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学事務局 学友支援室
TEL 076-264-5081
gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp